

## 幸智神社

宇高 託夫

幸智神社は延久五年垂仁天皇の苗裔有馬中将千賀守が美濃國より来住せしとき奉齋せるものにして、爾来一族隆昌今日に及んでいます。昭和四十八年九月、氏子、相はかり九百年祭を執行しました。当幸智神社は、阿戸の天皇原下馬地にあり、昭和四年四月に現在の沼田町阿戸唐茂が迫に、鎮座されておられます。

祭事祭典は、毎年三月十五日でしたが、最近では毎年三月第三日曜日に取り行われます。

現在の氏子中は、十二戸でご奉仕いたします。



幸智神社

## 岡尾山 浄宗寺

竹内 葉子

阿戸の岡尾山浄宗寺は、浄土真宗本願寺派の寺で、現住職の釋徳水師は第十五世に当たられる。「芸藩通志」には、阿戸にある浄宗寺を岡尾山といい、もとは真言宗岡尾山養樂寺と言っていた

が、天正十三年（一五八五年）僧道順の時、浄土真宗浄宗寺と改めた、と紹介されている。

また沼田町史には、浄宗寺は元龜元年（一五七〇年）に道順が井田屋垣内に創立した岡尾山松元院養樂寺の後で、天正十三年大下に移転し、文祿三年（一五九四年）一説によると、天正十三年真宗に改宗し、後に三代祐念のとき、明歴二年（一六五六年）現在地に移ったと伝えられているという記載がある。

また、親鸞聖人生誕八百年記念事業として、建てられた石碑には、次のような碑文がある。

「当山開基道順法師長門の武官（の地）に來たり正親町帝、元龜元年沙門となり道順と号す、同年廿才の春、中の地に一字建立遍照院養樂寺と号し真言宗に属す。天正十三年大下の地に造営し改宗して浄土真宗に属す。第三代祐念明暦三年岡尾山に移り諸堂宇完備」

浄宗寺の建造物に関する古い記録によると、江戸時代の中ごろ



岡尾山 浄宗寺

から、本堂・鐘撞堂・山門の再建の記録があり、明治二十年代には、本堂・向拝・後堂の大修復、大正年間に経蔵、昭和に入って、戦後鐘楼の新改築がなされている。

明治の大修復から百年を経、総工費約二億円の浄財でもって、平成九年から二年余の歳月をかけ、「平成の大修復」がなされた。本堂の前方移動、基礎工事、屋根組も寄せ棟から寝殿造り風に、内陣改装、炊事場、大手門の改築、山門の修復、便所の新設等大規模な工事であった。住職も十四世から十五世へ継承。

しかし、古い彫刻や木組みは、そのまま随所に残され、先人の優れた匠の技を目にすることができるといえる。お念仏道場としての活用を願う。

## 榎原今宮社 雑感

政所 武志

榎原地区の南部に小さな社殿があります。神社名を「今宮社」と言い、俗称は「今宮さん」と呼んでいます。

創立年は不明ですが、古文書によれば、「萬延貳辛酉年（一八六一年）拾月吉日再建」と記してありますので、それ以前の創立と思われま

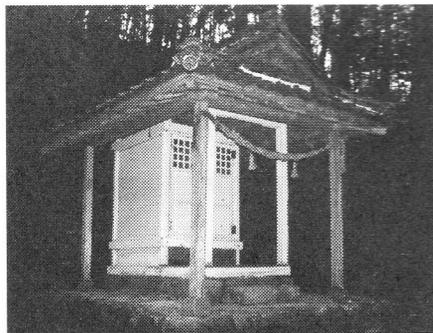
また、同古文書に「明治五年申五月一般ノ法則ヲ以テ氏神社へ合祀ス、明治六年五月又同所に祭ル」とありますので、明治初期の小社の統廃合によって、阿刀明神社に一時合祀され、また現在の位置に祭られたものと思われま

御祭神は「宇迦御魂神、素戔鳴尊、稲田姫尊」です。「宇迦御魂神」は古くから一般に、百姓の守り神様として、農民の信仰の厚い神様です。

当神社は特に水神様として、古来より言い伝えられています。これは今宮社のふもとにある通称今宮谷に清水が湧き出していますが、この水が過去のようになづにも水がかれたことがなく、これは今宮社の御神力によるものと信じられ、現在もかれることなく、湧き出しています。

通常お祭りは、秋に行われるのが一般的ですが、今宮社が祭日を旧四月一日と定めていることは、稲の作付け前に今年も水が豊富で、豊年であるように祈念するために、定められたものと思われま

氏は十数軒で数年ごとに、お祭りを行っています。最近では平成十四年にお祭りをを行い、併せて神楽を奉納しました。



榎原今宮社